

Green Brave

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT4

Japanese Endurance Race

Super Taikyu

BRIDGESTONE



ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2023 Supported by BRIDGESTONE 第3戦

2023年7月8日(土) ~ 9日(日) SUGO スーパー耐久 3時間レース

■■■■ チーム力で逆転に成功!! 開幕3連勝を達成 ■■■■

開幕戦から無敗の2連勝を記録している Green Brave。第3戦のレース時間は3時間。ジェントルマンドライバー山崎選手とGBドライバー、吉田、服部、川合の3選手が出場します。

土曜日(予選日)の天候は曇。GR Supraには60kgのウェイトハンデが搭載されています。午前中に降った雨が若干コースに残る中、Aドライバーの山崎選手はドライタイヤでコースイン。3周目に1分28秒903のベストタイムをマークし、3位につけました。Bドライバー、吉田選手もドライタイヤでコースイン。直前に雨が降り始めたため、序盤からアタックを行い、4周目に1分27秒573のベストタイムをマーク。しかし、雨は予想に反して弱まり、後半にアタックを行ったライバルが吉田選手のタイムを上回ります。吉田選手の順位は7位ですが、両ドライバーの合算タイムは3位。表彰台を狙える好位置につけました。Cドライバーの予選では服部選手がマシンバランスの確認を実施。続くDドライバーの予選では川合選手が異なるセットを試してデータの収集を行いました。

日曜日(決勝日)の天候は晴。スタートドライバーは吉田選手。服部、山崎とつなぎ、得意のピット戦略で逆転を狙います。14時に3時間の決勝レースがスタート。吉田選手は3位をキープしたまま1周目を終了。5周目に雨が降り出し、順位の変動があったものの、吉田選手は変わらず3位で周回を続けます。18周目の終わりにトップの#885GR Supraがピットイン。これにより吉田選手は2位に浮上。トップは#34アウディR8で、吉田選手、#22ケイマン、#26日産Zまでがトップグループを形成します。38周目、吉田選手は#22ケイマンの先行を許しますが、42周目に#34アウディR8をかわし、2番手に復帰します。

54周目、コース上にストップするクルマが発生しますが、前半区間を走行していた吉田選手はピットに戻ることができず、すぐにFCY(フルコースイエロー)が導入されます。レースは55周目から再開され、吉田選手は#22ケイマンのピットインによりトップに浮上。チームは57周目の終わりに吉田選手を呼び戻し、最初のピットインを行います。服部選手に交代し、給油のみでピットアウト。服部選手は#22ケイマンの前でコースに復帰することに成功し、2位に上がります。トップは#885GR Supraで、その差は約23秒。しかし、68周目にトップを走る#885GR Supraがトラブルでコースアウトし、服部選手はトップに浮上します。車両回収のため、69周目にSC(セーフティカー)が導入され、服部選手はピットイン。山崎選手に交代し、給油と運転席左側のタイヤのみ(2本)を交換。再スタートをきります。予定より早いピットインとなりましたが、店舗メカニックは冷静に対応。山崎選手は2位でレースに復帰します。先頭を走る#26日産Zはピットインを

残しており、山崎選手が実質的なトップです。73周目からレース再開。87周目の終わりに#26日産Zがピットに入り、山崎選手はトップに浮上します。後続に対し、18秒のリードを築いた山崎選手ですが、残り時間30分を切った頃から3位を走る#26日産Zが猛烈な追い上げを見せます。しかし、山崎選手は後続とのタイム差と残りの周回数を計算しながらペースをコントロール。#26日産Zに約10秒差をつけ、トップでチェッカーを受けました。なお、今回のレースには6名の店舗メカニックが参加。ウェイトハンデにより、厳しいレース展開が予想されていましたが、確実な整備とピット作業で、逆転優勝に貢献しました。



決勝結果(ST-Zクラス)

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT4
(山崎 学/吉田広樹/服部尚貴/川合孝汰)

決勝: 1位(113周、3時間02分16秒979)

予選: 3位(合算タイム2分56秒476)



DRIVERS VOICE

予定より多い走行時間を担当することになりましたが、セーフティカーが入ったタイミングをうまくピットインに使えたと思います。終盤にかけて後ろからライバルが迫ってきていることはわかっていたのですが、マシンの状態と後続との距離、ラップタイムの差を考えて、慌てることなくいいに走ることを心がけました。4位以上が目標という中での逆転優勝は、チームの頑張りだけでなく、ファンの皆様の応援が呼び込んだ結果だと思っています。応援ありがとうございました。

(山崎 学選手)

ライバルにトラブルがあったとはいえ、自分たちのやるべきことをミスなくできたことが逆転優勝につながったと思います。60kgのウェイトハンデがありながらもマシンバランスは悪くなく、まわりから遅れることなく走れたこともチャンスを呼び込むことにつながったと思います。今回の優勝で次戦はさらにウェイトハンデが重くなるので4連勝は厳しいですが、今回のようにレース展開でチャンスがあった時にポイントをとれる位置で常にレースをしたいと思っています。

(吉田広樹選手)

今回はウェイトハンデが重いので優勝は無理だと思っていましたが、作戦がうまくハマりました。逆にライバルはうまくいかなかったようで、チャンスが巡ってきました。重い割にマシンバランスは良く、安定したペースで走れました。セーフティカーのチャンスを活かすことが自分の使命だったのでパーフェクトな内容でした。台数が多いST-Zクラスのレースで3連勝できたことは信じられないくらいです。想像以上に調子がよく、この勢いで去年より損ねたチャンピオンを確実にとりたいと思っています。

(服部尚貴選手)

今回のレースはポイント獲得が目標だったので、良い意味でチームがリラックスして臨めたことが結果につながったと思います。決勝レースでは乗る場面はありませんでしたが、タイヤ無交換の場合の服部選手の走らせ方や、FCYやセーフティカーが出た時に乗っていないドライバーの役割など、学ぶことが多くありました。GR Supraにマシンチェンジしたシーズンに早くも3連勝となりましたが、まだまだ後半戦があるので気を抜かず、連勝記録を伸ばせるように頑張りたいと思います。

(川合孝汰選手)

ST-Z クラス決勝結果

1位	埼玉トヨペット GB GR Supra GT4 (トヨタ GR Supra)	113 周
2位	Raffinee 日産メカニックチャレンジ Z GT4 (日産 Z)	113 周
3位	ナニワ電装 TEAM IMPUL Z (日産 Z)	112 周
4位	Porsche EBI WAIMARAMA Cayman GT4 RS CS (ポルシェ ケイマン)	112 周
5位	BRP★SUNRISE-Blvd718GT4 RS (ポルシェ ケイマン)	112 周
6位	SUN'S TECHNO Audi R8 LMS GT4 (アウディ R8)	112 周

出走 9 台 トップ 6 まで

ST-Z クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1位	52	埼玉トヨペット Green Brave	99
2位	885	SHADE RACING	45
3位	26	TEAM ZEROONE	44.5
4位	21	Audi Team Hitotsuyama	36
5位	19	Birth Racing Project[BRP]	36
6位	34	TECHNO FIRST	35

【NEXT RACE】第4戦 7月29日(土)~7月30日(日) オートポリス (大分県日田市)

Green Brave PARTNERS



赤城車体工業株式会社



EMG ルブリカント合同会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社 FM NACK5



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



埼群スリーボンド株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社西武ライオンズ



ティーズ・ワークス



株式会社デンソーソリューション



株式会社ドーム



トヨタホーム東京株式会社



トヨタモビリティパーツ株式会社 埼玉支社



ファクトリーギア株式会社



富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社



丸和工業株式会社



Mechanix Wear LLC

※50 音順